

## 令和2年度第2回四日市市総合教育会議

令和2年7月30日

13時00分 開会

### 1 開会

○佐藤政策推進部長 皆様、こんにちは。本日もまたお世話になりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、早速でございますけれども、定刻となりましたので、第2回目の総合教育会議を開催させていただきたいと思っております。

私、政策推進部長の佐藤が司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

5月に行われました第1回の総合教育会議の場でご案内もさせていただいたわけですが、四日市市の教育大綱の改訂に向けてということで、本日の議題にさせていただきたいと思っております。

一応公開ということでございますので、今のところお見えになりませんが、記者とか取材があるかもしれませんので、よろしくお願い申し上げます。

コロナ対策ということで、窓を開けっ放しにしております。換気しながらということで、ご理解よろしくお願いいたしたいと思っております。1時間少々を目途に終わるようにと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

早速ですが、事項書に従いまして進めさせていただきます。

### 2 四日市市教育大綱の改訂に向けて

○佐藤政策推進部長 本日の議題ですけれども、教育大綱の改訂に向けてということです。

四日市市では平成27年11月に策定いたしました四日市市教育大綱の対象期間が、平成28年度から令和2年度までの5年間になってございます。そこで、今年度は次期教育大綱を策定していくことが必要になってございます。法律の定めによりまして、あらかじめ総合教育会議において協議いただくことになってございますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、資料の説明から入らせていただきたいと思いますので、事務局からよろしく

お願いします。

**○田中政策推進課長** 今日はよろしくお願いいたします。政策推進課長の田中と申します。資料の説明をさせていただきます。

今から用います資料は2つございます。「四日市市教育大綱の改訂について」というA4の1枚のもの、A3の綴じてございます「四日市市教育大綱の改訂に向けて」、この2つで説明させていただきます。

私からは、まず、A4、1枚の「四日市市教育大綱の改訂について」を説明させていただきます。資料をお願いします。

1番、「大綱」の位置づけでございます。

先ほど部長からもお話がございましたが、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の中に定めがございまして、教育大綱を、地方公共団体の長は総合教育会議、要はこの場において協議を行って定めることになってございます。最初の教育大綱が平成27年11月をもって、5か年を計画期間としまして策定されております。本年度でそのおおむねの対象期間を終えることになってございます。

2番、教育大綱改訂の流れになります。

今年度中に改訂の作業を行いたいと思っております。

流れといたしましては、本日、7月30日の第2回総合教育会議の場におきまして、改訂に向けた諸課題の整理ということで、今までの振り返りをさせていただきます。それに基づいてご意見を頂きまして、今まで進めていた教育政策・施策の検証を踏まえ、次期教育大綱にこういうことを盛り込んでいけば良いのではないかという意見交換やご指摘を賜りたいと思っております。今日頂いたご意見を取りまとめて整理をいたしまして、次期教育大綱（素案）を作成させていただきたいと思っております。

その上で、11月ごろを目途に思っておりますが、次回第3回の総合教育会議の場においてその素案に対してまたご意見を賜りたいと思っております。さらに、そのご意見、ご指摘を踏まえ整理をいたしますとともに、市議会にも経過を報告させていただきながら、次期教育大綱（最終案）を作成したいと思っております。

来年、令和3年1月頃の第4回総合教育会議の場において、最終案について意見交換や確認をいたしたいと思っております。

それをもって、年度末、令和3年3月をもちまして四日市市教育大綱の改訂を完了しまして、公表してまいりたいと思っております。

本日は、そういった意味での最初の会議になりますので、どうかよろしく願いいたします。

先ほど申しましたこれまでの取組の振り返り等につきましては、A3の資料をもって、教育委員会事務局からご説明いただくことといたします。

**○佐藤政策推進部長** 続いて、お願いします。

**○高橋教育監** 教育監の高橋です。どうぞよろしく願いいたします。

私からは、教育を取り巻く新たな社会情勢や取組の施策、また、本市の現状と課題、現教育大綱の柱の施策の取組、評価などについて簡単にご説明申し上げます。以前にも一度見ていただいているところもあると思いますので、簡潔に話をさせていただきます。

まず、1ページの1番、初等中等教育の本質的な役割という、A3の紙をご覧ください。

そこに3つのちよぼがございますけれども、これは中央教育審議会初等中等教育分科会の特別部会のまとめからです。これは、令和2年6月18日のものがございます。

2つ目のちよぼですけれども、初等中等教育は協働的な学び合いの中で行われる特性を持ち、Society 5.0の時代こそ、教師による対面指導や児童生徒同士による学び合い、地域社会での多様な学習体験の重要性が一層高まってきてございます。

このコロナ禍の中、家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育、また、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない個別最適化された学びとか、社会とつながる協働的・探求的な学びの実現をしていくことが重要であるという、本来の学校で学ぶ意義、学校の存在というところを明確に打ち出しているのではないかと考えます。

次、2番です。教育を取り巻く新たな社会情勢の変化ということで、2つに分けて記載させていただきました。

社会情勢の変化というところで、人口減少・少子高齢化、グローバル化、超スマート社会の到来、SDGs、持続可能な多様な社会の実現が新たな課題として出ております。

また、教育をめぐる状況変化でございますけれども、新学習指導要領の円滑な実施。小学校は本年度、中学校は来年度でございます。子どもたちの学習面・生活面でございますけれども、課題解決に主体的に向かっていくとか、読解力の低下とか将来の夢や目標を持っている子どもの割合が横ばいであるとか、運動する子どもとそうでない子どもの二極化があるとか、コロナ禍における「学校の新しい生活様式」の導入という状況の変化が現れております。

本市の現状と課題としまして、学力、体力というところでご説明させていただきます。

学力は、全国学力・学習状況調査の結果からです。1 ページ下の折れ線グラフをご覧ください。

ここは、小学校、中学校と平成19年度からのものが記載されております。100が全国平均でございますけれども、見ていただきますと、小学校、中学校とも全国平均とほぼ同等かそれ以上です。令和元年の中学校を見ていただきますと、オレンジ色のちょぼが英語で、全国平均を2ポイント上回っているところでございます。今後、やはり読解力とか表現力の向上は小中学校とも課題であるとは考えております。また、算数・数学を中心とした論理的思考の育成も今後の課題と考えております。

2 ページをご覧ください。

右上の折れ線グラフでございますけれども、普段1時間以上学校以外で学習する子どもの割合、つまり家庭学習の定着です。

これは、全国もそうですけれども右肩上がりで、家庭学習は定着しつつあるのかなとは考えております。ただ、このコロナ禍の中、四日市ではいち早くオンライン教材を提示したというところで、今後もオンライン学習と学校での対面指導のハイブリッド化の効果的な運用が課題であると考えております。

次に、体力面でございます。

中間にございます折れ線グラフを見ていただきますと、全国平均とほぼ同等かそれ以上ではございます。全国も同じですけれども、全体に令和元年度のやや右肩下がりが気になるところでございます。やはり日常的な運動習慣の定着というところに今後もつなげていく必要があると考えます。

2 ページの一番下、運動やスポーツをすることが好きですかという折れ線グラフも、これもやや右肩下がりで、今後、やってみたいという動機づけとか、運動することの楽しさを味わわせることが重要であると考えております。

2 ページの右側をご覧ください。課題解決に向けた四日市市の取り組み施策です。

四日市市総合計画が本年度から10年間で位置づけされましたが、その中で、基本構想、子育て・教育安心都市の基本計画「子育てするなら四日市プラス」の重点的横断戦略プランの中のプロジェクト1が「令和の学び!」となっております。つまり、四日市の総合計画においては一丁目一番地一号が子育て・教育で、重点を置いておるところでございます。

そのプロジェクト1の具体的な取組の中に、(2)にございます四日市市新教育プログラムを位置づけております。

ここでは、新しい社会の到来などを見据えて、四日市の子どもたちの問題解決能力、言語能力、情報活用能力といった、資質・能力を育てるところでございます。資料には、新教育プログラムのものがございますので、また参考にしてください。

四角のところは、新教育プログラムの6本の柱ということで記載させていただきました。この新教育プログラムは、就学前から中学校のつながりを意識した一貫性・連続性のある教育・指導を実現するということでございます。

では、3ページをご覧ください。

現教育大綱を振り返ってというところで、社会人になっても通用する問題解決能力を育成するとともに、豊かな人間性を身につけ、ふるさと四日市に愛着と誇りを持つ「心豊かな“よっかいち人”」を育むことと、本市の教育を支える5つの理念というものを現大綱でも示させていただきました。その5つの理念について簡潔に説明させていただきます。

まず1つ目の柱としまして、社会人になっても通用する問題解決能力の養成でございます。

真ん中に表がございます。問題解決能力向上のための「四日市モデル」を取り入れた指導案、つまり授業を行った学校は、令和元年度は59校。小中学校とも全てでその取組は進んできております。

社会人になっても通用する問題解決能力の育成というところで、ICT教育が進展する中であっても、やはりコミュニケーション能力の育成は重要であるというところで、お互いの考えを話し合う活動において自分の考えを深めたり広めたりするところが重要でございます。

その子どもたちの状況をあらわしたのが、表の下の折れ線グラフになります。これは、学力・学習状況調査の中での児童生徒質問資料から取っているものではございますけれども、実線が四日市です。小学校は全国よりやや下がっておりますけれども、中学校は話し合いの活動をしているところです。今後も、1人1台のコンピュータ端末が導入されることから、新教育プログラムの趣旨を踏まえた問題解決能力向上のための授業づくりとICTの有効な活用について研究を進めてまいりたいと思います。

続きまして、豊かな人間性と健やかな体の育成でございます。

自己有用感や他者と協調し思いやる心が大事になってきます。この中で、右上の折れ線グラフで、自分にはよいところがある。これが自己有用感、自己肯定感でございます。そういうところも全国平均を上回ってございますけれども、先ほどの体力とよく似た右肩下

がりというところがございます。やはり子どもたちが夢や希望を持って、自分のよいところを自信を持って表現できるところを今後も育てていきたいと考えています。

体力については、先ほど説明させていただきました新教育プログラムにおいては、「運動大好き！走・跳・投UPプログラム」を進めてございます。

4ページをご覧ください。夢や志の実現の向け、自ら間学び続ける意欲・態度の涵養ということで、3つ目の柱でございます。

右上の折れ線グラフがございませけれども、将来の夢や目標を持っているというところがやや右肩下がりでございます。やはり学ぶことと社会とのつながりとか、子どもたちが自らの学習状況とかキャリア形成、社会的自立とか職業的自立に向けて、夢や希望を持って育っていくということについて、体系的・系統的な教育活動の展開をしていく必要があると考えております。

今年度は、キャリア・パスポートというのが国からも義務づけられており、未来につながるキャリア・パスポートの四日市版も作成して、子どもたちの学びの履歴を進めていきたいと考えています。

4番目、家庭、地域、学校・行政が連携・協働した教育の実現です。

本市においては、四日市版コミュニティスクールで、地域とともにある学校づくりを進めております。令和2年度には55校となっております。

このコミュニティスクールを中心に、地域の困り感や学校の困り感、そういうものが好循環が生まれるようなシステムを、今後も取組を進めていきたいと考えております。地域で子どもが育つという意識の中で取り組むことによって、地域愛というものも育ってくると考えております。

そのつながりとしまして、右側の(5)都市の特長を生かした四日市ならではの教育の推進です。

本市には、そらんぼをはじめとした博物館や久留倍官衙遺跡等があります。そのようなところへ各学校で学習に行くとか、企業連携、JAXAとの連携もございます。こういう取組を指標として、ここの表に示させていただいております。産業発展と環境保全を両立するまちづくりを進めていった本市ですので、持続可能な社会づくり、SDGsを意識した取組を今後も続けていきたいと考えております。

本市では、ESDカレンダーを各小中学校とも作成し、環境とか人権とか、将来にわたって持続可能な社会づくりの担い手となるような教育にも取り組んでいるところです。

最後に、次期教育大綱策定に向けてです。

このような社会情勢とか四日市の現状を踏まえると、学力や体力の向上、さらには豊かな心の育成に関して一定の成果が表れていると言いながら、その強みも生かしつつ、この教育大綱の継承もしつつ、本市の教育の理念を本日ご検討いただけたらと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

**○佐藤政策推進部長** ありがとうございました。

ただいま、教育大綱の改訂に向けまして、教育を取り巻く環境の変化とか本市の現状の課題をご説明いただくとともに、これまでの現大綱の検証といいますか振り返りについてご説明いただいたところでございます。

資料に沿いながら順番にいかせていただきたいと思います。

まず、A3の大きな資料の1ページ、2ページあたりになろうかと思えますけれども、教育を取り巻きます新たな社会情勢とか取組の施策、本市の現状について、今の説明に基づきましてご意見なりご認識等、ご質問があれば、お願いしたいと思います。いかがでございましょうか。

どうぞ渡邊委員。

**○渡邊教育委員** 今のような教育大綱、非常によくできているとは思いますが、世の中の変化、特に自分たちの学習が世の中の役に立つといいますか、世の中の課題を解決していくために非常に重要な基礎だという認識を持つという意味で、社会とのつながりというものをにらみながら基礎的な学習をしっかりとやっていくという、いわゆる探求的な学習に非常に力を入れて特色づけをしていただくといいんじゃないかと思えます。

学習の基礎、言語能力、数学的な力とかそういうものが基礎であるわけで、表現力では英語ですけれども、理科、社会の関心を、社会の矛盾といったものを教材の中から見つけてそれを解決していく。

私の念頭にあるのは、地球環境です。強烈な地球環境の悪化というのを本当に日に日に感じますよね。このままいくと地球は大変な状況になると環境学者の人が言っているんですけども、学習を通していわゆる環境マインドみたいなものをしっかり身につけられるような、課題を自ら見つけて伸びるために非常に大事なことだと思います。

四日市は特に過去の環境問題のこともあるわけですから、四日市は環境先進都市みたいなものを担っていくんだと、課題解決に向けて頑張っていくんだという面につなげていただくと非常にいいと思ひまして、ぜひ今度の教育大綱、頑張ってください。

そういうところを、はっきりめり張りつけて出してほしいと思います。

○佐藤政策推進部長 まさしく将来、社会の中で役立つような考え方に結びついていくようなやり方をしていくべきだろうということかと思います。

ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。

○豊田教育委員 1ページの右下の学力調査の結果とかを拝見しますと、今のビジョンにかわってからの、特に低学年の学力の上昇というのは非常にうまく反映されているのかなと。なので、今の中学の方たちは正直あまり伸びが見られていないんですけれども、今のこういう教育を受けてきた子どもたちが中学、高校と上がっていくときに、つながっていく教育の結果が出ていくのかなと思います。今度の新教育プログラムは、小中だけではなくて、幼稚園、保育園、こども園の小さいところからちゃんとつなげようということなので、これをぜひそのままつなげていくと上がっていくのかなというので、そこをちゃんと強化していけるような形がいいかなと。

ただ、急激な社会環境の変化で、特に今出ていますけれどもコロナの状況になってきたときに、そもそも運動が好きな子どもたちが、2ページの下グラフになるとあまり伸びが見られないところで。どうしても行動規制とか、親御さんの意識もあって少し控えてしまう可能性がある状況が、少なくともしばらく続く可能性があるのかな。その中で運動って楽しいねとか、運動と遊びが小さい子どもさんからつながっていくということを大事にして。内的思考を養い、考えてつくっていけることも大事だけれども、体もつくらなければならない。そこのバランスを配意したもので、この新教育プログラムにはずっと入っているけれども、運用のところになるとその辺も課題になるのかな。

今後5年間を見たときに、5年前というか、去年でも、コロナでこんなことになるって想像がつかないので、そういう状況にも対応できていくもの、何かはよくわからないですけども、そういうことも一つの課題なのかなって。

オンラインも、図らずしも前倒しで走り出して、これがなければもうちょっと進みが遅かったかなという想像がありますけれども、コロナがあったために進み具合も速かったので、予想以上に次の5年間というのは変わっていく可能性があるのも、柔軟性のあるような、そこに対応できるようなものになると、今までの結果から見ると、四日市がもっと伸びていけるのかなとは感じました。

○佐藤政策推進部長 ありがとうございます。

今回のコロナによって予期していなかったものをきっかけにして、想像以上に先へ進んだというところはあると思います。それをうまく生かして、これと同じようなことがまた起こるのではないか、そのようなことも念頭に置きながら考えていかなければいけないというご意見かと思いました。

**○伊藤教育委員** 私も、新型コロナの感染状況の中で学校が臨時休業とかを迫られるという中で大きく出てきた課題といたしますか視点で、ここには遠隔・オンライン教育という言葉が出ていますが、実際にICTを使いながらいかにやっていけるかという大きな視点であって。

いわゆるGIGAスクール構想が随分前倒しになって、この環境整備が進むという状況があるので、今後、学校の教育、授業が大きく変わるというか、これを効果的に使った方法を進めていく。いずれにしても出ていますし、そういうことが重要な視点になってくるだろうと思います。

やはり考えておかなきゃならないのは、初等中等教育の本質的な役割の中にもありますけれども、教師と子ども、子ども同士が対面で直接的な関わりを大事にして学習を進めていく。いわゆる主体的で対話的で深い学びというものを前提として、これをベースにしているんだと。

ただ、今言いましたように、ICTの環境を整備する中で、それをいかに効果的にするか。これも含めた場所で協働的な学びというものが実現していくことを目指していく必要が出てくるんだろうな。本市の教育大綱に書いてあります問題解決という視点はそれがベースであって、これはぜひ引き続いてやっていくべきことだと。今のようなことをこれにかぶせながら、さらに進めていくということが大事ではないのかなと思いました。

それから、2ページ目で体育のことに触れられておるんですけども、やはりグラフを見ても気になる状況がある。日常的な運動習慣の定着というものが今後さらに必要になってくるのではないかと。いわゆる学校の授業での運動量の確保とか運動の質を高めるというのは確実に学校が進めていくことだと思うんですが、それだけで子どもたちの体力向上とか運動習慣が身についていくことになるかは、なかなか厳しい部分があるのではないかと。

そういう意味で、地域とか家庭との連携が非常に大事になってくる。学校が核になりながらそういったものをどういうふうに進めていくかという、抜本的な視点を置いて改革をどうしていくか、どういうビジョンを持って子どもたちの運動の日常化とか運動習慣の定着につなげていくのかということ、体力の向上に外せないことだと思うんですが、この

大綱を考えていく上で一つ置いていかなきゃならないのかなと思いました。

とりあえず以上でございます。

**○佐藤政策推進部長** ありがとうございます。

今2点ほどご意見を頂いたわけですが、1つ目は、先ほどから出ていますように、GIGAスクールがどんどん進んでいく中でICTのオンライン教育等が進んでいきますけれども、問題解決というところを目指していくには対面での関わりというのが欠かせない。その辺はベースとしてきちっとやっていくべきではないかといったところ。

そして、体力向上に向けては、学校教育の中での運動だけでも十分ではないでしょうということで、家庭や地域との連携といったことにも力を入れていくべきではないかといったご意見かと思えます。

ありがとうございます。

**○伊藤教育委員** もう1ついいですか。

オンラインであったりICTの関係で、個別最適化された学びというのがよく出てくる言葉です。いわゆるICTが進むことによって子どもの学習履歴とかいったことを活用したり、学習の例をうまく組み合わせながら、多様な子どもがおりますのでその子に応じたものを提供したり、そういう場をつくっていけるということで、子どもの学びが意欲的になり、より進んでいくという可能性をかなり秘めているというのか、今後そういう視点を加えることによって効果的なものができるんじゃないか。

総合計画の中にも、多様な子どもたちに対する多様な学びの場を提供するということが書いてあるんですが、ICTをうまく使いながら進められるという視点も、今後いろんな子どもたちの状況を捉えた教育を進めるということを中心にしたいなと思えます。

**○佐藤政策推進部長** ICTを活用して、うまく個別最適化に向けて使っていけたらということでありますけれども、教育長、そのあたりで何かありますか。

**○葛西教育長** 私たちは既に、個別最適化ということについて推進校をつくって、その中で取組を始めようとしております。それについても、本年度予算も認めていただいておりますので、これはしっかりとやっていきたい、いくべき課題だと思っております。

**○佐藤政策推進部長** ありがとうございます。

ほか、いかがですか。

鈴木委員、どうぞ。

**○鈴木教育委員** 私も今回のコロナのことで、学習の保障ということで、オンラインで授

業をしたり、あとは先生方が配付していただいた資料などをもとにして自主学習という形にしてはいたと思うんです。

そのときに、家庭の事情でなかなか学習が進んでいない状況というのは、どのくらい格差が出ているかというのは、今はまだわかりませんが、日々仕事に行かれています。子どもたちを見ることはできませんし、帰ってきて、その後に子どもたちに「勉強しろ」とか「これだけはやらなきゃいけない」とか言うのも、環境的にはかなり厳しいと思います。ましてや、こういうコロナの状況下で親もちょっとぴりぴりしていますし、子どもたちは家から出られない中でストレスも出てきます。

そういうところをうまくICTを活用していただいて、先ほど伊藤委員が言われたように、個々に、1人ずつ適した学びができると、保護者としてもすごく安心できるというか。そういうところを目指していただくことがいいのではないかなと思います。

豊田委員も先ほど言われていたんですけれども、運動や遊びということがこの状況下でできない。そこでまたストレスがたまってしまう。そしてさらにゲームとかいうことに、子どもたちも家の中でできることをしていく。その中で、SNSとかメディアの関係で誹謗中傷とか行き過ぎたこととか課金とかいうことも出てくると思うので、そういうところもきちんと教育というか、親と一緒に問題解決できるように進めていくのが大事じゃないかなと思います。

外に出られて、運動できたり友達と遊べるようになればまた状況は変わってくると思うんですけれども、こういう状況下です。また、自然災害とかそういうことも起こり得る可能性は少なくないので、そういうときに、いかに子どもたちのケアをするか。また、親とかのケアというのもなかなかできづらいところなんですけれども、それが地域社会、市でカバーできる、手助けできることをもっとアピールしていけるような感じだと、安心して子育てもできる。そしてまた、ゆくゆくはそこの子どもたちもこの四日市に戻ってきて守っていくという形になっていくのではないかなと思います。

**○佐藤政策推進部長** ありがとうございます。

家庭の事情による格差というのも出てきているだろうということですが、事務局、今そのあたりは色々何かアンケートをやっているところかと思いますが、いかがでしょうか。

**○中村教育支援課参事兼課長** 教育支援課の中村でございます。

家庭におけるWi-Fi環境のあるないにつきまして各学校で調査を行いまして、ない

家庭が各学校でどれぐらいいるのかという把握はしてまいりました。

さらにこれについて、現在タブレットパソコンを順次導入しておりますが、家庭へ持ち帰りができるような想定という形で準備を進め、W i - F i 環境のないところにあっては W i - F i の機器を貸し出すことによってできるだけつなげる状況をつくっていくという形で準備を進めているところでございます。

以上でございます。

**○佐藤政策推進部長** ありがとうございます。

I C Tの教育の進展ということで皆さんから様々なご意見を頂いたわけですが、市長から、何かご意見などございますか。

**○森市長** I C Tというのは1つのキーワードになってくると思います。

先ほどもありましたように、G I G Aスクール構想で四日市市としても今年度中に何とか生徒1人1人にタブレットを配って、来年度からスタートできるという体制を整えるので、ハード面は着々と進んでいるわけですが、それをいかに運用していけるかというところを早急に整えてもらいたいなと思っています。

学んでE - n e t !も早速、速やかに取り組んでもらいましたけれども、とりあえずで始まってしまったので、今はまだまだ十分に活用できていないところもあると思います。それどころではない部分もあるのかもしれませんが、時間をかけてやってもらいたい。また、相互のやり取りができるオンライン授業の確立とかいった部分も進めていってほしい。I C Tをうまく使っていけば、不登校の児童生徒に対する学びの保障にも使えるということですので是非お願いします。

とにかくI C T教育が、「全国一律でスタート」みたいなものになってしまったので、先進都市とかがあまり多くないような状況ですが、ぜひとも四日市は前のほうで何とか食らいついていけるようにしたい。1番を走っているとは思わないですが、何とか食らいついて、地域を牽引していけるような体制を整えてほしいなと思います。

そして、この期間の振り返りということですので、ちょっと感想になりますが、英語は昨年の学力テストはすごくよかったのですが、残念なのが、数学・算数がちょっと落ちてきている、特に数学。私が市長になったときは、「数学が本市の強みですよ。」という話をしていたのですが、いつの間にか「英語が強みです。」みたいに変わってしまって、数学・算数をまた盛り上げていただければ良いなと思います。

私がちょっと心配しているのは、先ほども挙がっていましたが、やはり体力です。

体力は、コロナ前の結果だけを見ても全国的にも下がっているということで。これ、スマホの時間がどうのこうのとかゲームでどうのこうのという報道がされていますけれども、それは四日市も同じことで。この下げの流れがどこまでいくのかなという危惧もしております。コロナの影響でさらに下がっていく可能性もあって、そういった部分でまた現場の先生方でいろいろな機会を見るとか、きっかけをつくっていただきたいなと思っています。

皆様がおっしゃられているような問題意識を私も持っているところです。

**○佐藤政策推進部長** ありがとうございます。

それでは、進めさせていただきまして、既に次のページの3ページ、4ページあたりのことに関しても入ってきているような気もするのですが、現教育大綱の振り返りにつきましても少しご意見を頂けたらと思いますので、順次ご発言を頂きたいと思います。

いかがでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

**○渡邊教育委員** 似たようなことですが、超スマート社会はA Iなんか随分と導入されて非常に便利にはなるんですが、そういうことの結果、職業も、今まであった職業が随分職業としてなくなってしまいます。A I社会、スマート社会へ乗っていけるような職種というのは存在するんだろうけれども、そうでないのはなくなってしまいう社会になるわけですかね。だから、ハードはいいんですけども、ICTに対するリテラシーというかそれを使いこなせるような能力がないと、職業の機会すら失われてしまう。これは親の世代の格差が子どもの格差にもなっていく、大変恐ろしいことも起こるわけです。

学校の中でも、ICTリテラシーのある子は教育についていけるんだけど、そういうリテラシーがないとどんどん遅れてしまうという、学校の中で教育格差、学力格差というんですかね、そういうものが非常に出てくるんじゃないかという心配を持つわけです。

そうするとやっぱり全体的に足を引っ張るわけですから、全体的に学力の低下にもなってしまいます。いかにハンディがあってもちゃんとリテラシーがつくような教育というのがこれから本当に求められていくところだなと。

社会人になっても通用する問題解決能力とかタフな人間性とかいうベースになるところで、恐ろしいような行動変化がこれから起こるんです。教育としてそこを取り残さないようにしていくというのはものすごく工夫が要るし、きめ細かな、さっきの個別最適化ということも非常に重要な要素だと思います。そういうことをきちんと見て積み上げてということも。スローガンはそのものでよろしいですけども、中身にそういう問題が絡んでい

ることを認識した上でやっていくことが非常に重要だと思います。

教師の人員はなかなか増えませんので、教師の人員不足を補うようなものが要るのかなと。そういったところでコミュニティスクールなんか、もっと実質的に教育の底上げに有用になるようなコミュニティスクールのバージョンアップといいますかね、そういうことを望むところです。

内容としては、柱としては、現在のこの教育大綱の柱でほぼ十分ですが、中身をどうバージョンアップしていくか、そこが工夫したいところです。

**○佐藤政策推進部長** ありがとうございます。

ほかの方はいかがですか。

はい、どうぞ。

**○豊田教育委員** 3ページ、4ページを見せていただいて、コミュニケーション能力のところは、しっかりと話し合う活動がうまくできることは大事な事かなと思うんですけども、ICTに使われるのではなくて、そこをツールとしてうまく使いながら、いわゆる対面のときにそのツールも使いつつ、相手のことをとということです。

以前からありますけれども、3ページの右上の、自分にはよいところがあるというのがちょっと下降傾向を示している。子どもたちが自分のことをどう思っているのか、4ページを見ると将来の夢があまりいい矢印の方向というか、全体のグラフの流れが下を向きつつあるのかなということとか。

でも、学習は将来に役立つと思うって、子どもたちは夢もないのに学習したことを将来何に役立てるのかなという結果になっているので、そのあたり、教育のところでの1人1人のそれこそ個の大切さとかいう部分と、相手をちゃんと思いやるということ、それをしっかりと言語化してとか、あるいは自分の中で考えて実践していけるような力をつける必要があるのかなとは感じました。

**○佐藤政策推進部長** まさしくIT、ICTに使われるのではなく、それをきちっと使って、コミュニケーションを取れる人間をつくっていくというのが重要でしょうね。

ありがとうございます。

**○伊藤教育委員** 3ページの左側に問題解決能力の養成というのがあります。本市がこれに取り組んでから結構な年数がたっているんですが、ここに「四日市モデル」という言葉を使ってあります。いわゆる授業を組み立てていたり、単元といたり題材に応じてということを使うんですけども、目標値を見ても、それを進めている学校がもう全校にな

ってきているわけですね。今の段階としては、やはりいろんな施策を進めるという意味で、授業改革、改善が進んできている一つの数値かとは思いますが。

ただ、学力の状況、先ほどの数学の様子とかを考えまして、問題解決のプロセスの意味をきちっと捉えながらいかに授業を進めていくかということをやいま一歩、次の段階として質のいいものにしていくというところが必要じゃないかと。数学Bが下降傾向という一つの原因として、知識や技能の活用というものをいかにしていくかということをや学習の中できちっと進めていくということがかなり重要な内容だろうと思います。

そういう意味でいうと、問題解決というものを、もう一度その中身も振り返りというか。子どもたちがそういうふうな形で問題解決に向かっていけるのか、また、そういうふうな授業であったのかということをやチェックしながら、質的に高いものを目指していく必要が出てくるだろう。

取り入れたからできているんじゃないで、力をつけるためにこの方法を取っているんだということをやもう一度確認していかなきゃならないんじゃないかと思えます。

○佐藤政策推進部長 ありがとうございます。

○伊藤教育委員 それと、次のページの家庭、地域、学校・行政が連携・協働した教育の実現ということで、コミュニティスクールについても、四日市市は随分コミュニティスクールになって、今後も全小中学校がそれになるということで、そうなる地域とともにある学校になったということではないとは思いますが。

やはり内容的にそうなるためにどうしていくのかというビジョンを各校が持たないとなかなかそうはならない。各地域によって、各校によってやはり特徴があると思えます。どんなコミュニティスクールを目指していくかというビジョンというんですかね、像を確認しながら、市とも協議しながら、どうそれを具体的に進めていくかということをや今後していかなきゃならない。

その中で、ちょっと具体的になりますけれども、いろんな地域の方々と協働する、いわゆる参画もしてもらいながらやっていくとなったときに、地域とどう協働していけるのか。地域の方が参画という形になってくると、教育の主体は学校にあるんですけども、どんな形でビジョンを共有して進めていこうかという参画の視点までなっていこうとなると、人を入れるコーディネートをするとか、こういう協力ができるといったことを協議していくとか、そういうことをやはり学校からの発信だけじゃなくて、地域の方がそういったこともかなりの意味で話し合っていけるような土壌をつくっていかなきゃならない。そうい

う意味で、地域の方々だったり地域の中でのコーディネート力みたいなものの向上をつくっていかうとすると、学校だけではなかなか難しいので、市もそれをどうしていくかという視点を一緒に考えてもらいながら、コミュニティスクールがより進むという意味での取組を次の5年間で進めていく必要があるんじゃないかと思いました。

**○佐藤政策推進部長** 問題解決能力に向けての四日市モデル、それからコミュニティスクール。近々全校においてできてくる。ただ、その中で、全校にそういったものができれば良いということではなく、その中身についてももう少し充実を図りながら実質的なものにしていく。そこに市ももう少し力を入れてもらえると良いのではないかというご意見かと思えます。

**○鈴木教育委員** 私も気になったことが。

学習したことは将来に役立つと思うとアンケートで出ていますけれども、その割には、将来の夢や目標が下がってきている。

それと、自分にはよいところがあるということがデータに出ているんですけども、あると思っけていても、それを自分たちが伝えることができないし、みんながどういうふうを考えているのかということ想像するとか、聞かないとわからないと思うんです。みんなの意見を聞く場というか。もちろん、道徳とかそういう授業などで聞く機会もあると思うんですけども、全員がこういうことを考えているということがわからないと、自分はもしかしたら間違っているんじゃないかと思う子どももたくさんいると思う。そうすると、自分の意見というのを積極的に言うことができないのかなと思いますので、そういうことが自分でしたいなとか、頑張りたいなと思っけていても、自分を表現することができにくいという現状があるのではないかなと思います。

そうすると、やっぱりたくさんある構想で、学習に関しても問題解決能力とかコミュニケーション能力とかいう話で出てきますけれども、それが結びついていないのかなとは思いました。

**○佐藤政策推進部長** ありがとうございます。

まだまだ自分の意見を積極的に言えるところまでは至っていないのではないか。そういう環境をつくっていくべきだろうということかと。

ほか、いかがでしょうか。

**○森市長** 本市では、コミュニティスクールにすごく力を入れてもらっているんで、今年度で55校までいくということで全市的に広がってきていて、地域と学校の距離が非常に

近くなってきていると思います。

国からも文部科学大臣表彰もいただいているので、本市の取組は先進的なのかと思っています。地域行事に参加しているのが高まってきているのも、こういった皆様のご尽力の結果かなと思います。一方、キャリア教育も文部科学大臣表彰を受けてきているという歴史がありますので、本市も各学校で特色のある取組をしてもらっているのかと思っていますのですが、そういった意味では、先ほどから出てくるように、アンケートを見てももう少し上がってほしいなというのがあるので、広げてきていただいた5年間であったと思うのですが、それをさらに掘り下げていただける期間にしてほしいと思います。

○佐藤政策推進部長 教育長、よろしいですか。

○葛西教育長 非常に期待していただくお言葉が多くて、うれしい反面、もっとしっかり頑張らなきゃならないんだなという思いもあります。

先日、ある報道機関の方が転勤するということで挨拶に来ていただきました。新聞記者の方はあちこち回ってみえまして、いろいろ地域の特性みたいなことも非常に敏感に、また巧みにお言葉にされるんですけども、その方が言われますに、四日市というのはちょうどいい規模感だと。小学校の数、中学校の数が非常にいい規模感だと。教育委員会が考える施策、あるいは教育についてこうやっていこうというのがどの学校にも浸透しやすい。また浸透していますねと。もう1つ言われたのは、子どもの表現力、発表力が他の地域に比べてありますねと、しっかり物が言えますねというプラスの言葉を頂きました。

確かに、報道機関の方にインタビューを受けて、さっとその場で答えられるというか、そういう子どもの姿は随分育ってきたな、多くなってきたなと思います。また、様々な行事で自分の学校を紹介したりあるいは自分の思いを出したりするのも、紙を見ずに自分の言葉で、その場で話ができるというコミュニケーション能力もついてきているなど。それが全ての子というわけじゃないですけども、そういう子どもの姿が増えてきているという実感を持っています。

これからは、そういうよい子どもの姿をモデルにして、より多くの子どもたちに広げていくという努力、意識が我々教師側には必要だろうなと思います。

○佐藤政策推進部長 ありがとうございます。

少し時間も長くなってしまったわけですけども、色々とたくさんのご意見を頂きました。

今回の教育大綱の改訂についても、大きなところ、本筋というのはそれほど変わっては

こないと思うのですが、本日頂きましたご意見をキーワードにしながら、次回の会議までに案をつくらせていただきたいと思いますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

### 3 その他

#### (報告事項) 市立小中学校における学校再開後の状況について

○佐藤政策推進部長 最後に1つ、最近の小中学校のコロナの関連についてでございますけれども、学校を再開しまして、その後の状況について事務局から簡単にご報告だけお願ひしたいと思います。

○高橋教育監 教育監の高橋です。

A 4裏表ホチキスどめのもをご覧ください。市立小中学校における学校再開後の状況についてです。

まず初めに、経緯ということで、この新型コロナウイルスに関わっては、3月5日から24日まで臨時休業。その後、修了式、春休み、小中学校の始業式を経て、再度4月15日から5月17日までの臨時休業。18日からは分散登校、25日からは通常登校で、6月1日からは部活動が再開しております。明日1学期の終業式で、2学期は、本来は8月31日までが夏休みのところを8月23日までが夏休みということで、24日から2学期がスタートするところです。

この4月からの臨時休業で失われた22日間を、春休みも遅くして15日は確保する。あと1週間を日課表の工夫、7限の授業をするところもありますし、5限のところを6限にする週もありますし、帯で15分をモジュールとして積み上げていく。その下にあるんですけど、今までやってきた当たり前の準備とか学校行事、練習とかももう一度考え直し、行事等もリノベーションしまして取組を進めることで、授業時間を十分生み出せるのではないかとこのところでございます。

具体的に2番、感染症対策に係る行事等については記載のとおりですけれども、特に上から3段目、宿泊的行事です。修学旅行については、現在全国的に感染状況が悪化してきているというか新規感染者が増えてきている状況で、小中学校ともそれへの対応というのは考えているところで、目的地、日程等を含めて検討しているところです。

校外活動、先ほどからキャリア教育的なところでもご意見を頂いておりますが、職場体験というのが一つの大きな取組ではあったんですけども、現地、現場へ行っての体験

活動は、不特定多数の方と接触するということもありまして、今年度はなしと。ただ、ゲストティーチャーとして招いてお話を聞いたりとか、そういう方たちにオンライン等で話を聞く取組を進めているところです。

一番下、その他の中体連については、一番最後のページをご覧ください。

現在、中体連三泗地区大会という独自の大会をしております。本来はこれが県大会とか東海大会、全国大会へつながっていくんですが、独自の三泗地区大会でございます。7月25日、8月1日、8月2日、この土日、8月8日と、予備日を9日にとってございます。実施種目は記載のとおりです。

運営形式ですけれども、大会の参加は3年生を中心にというところとか、1競技会場には100人までとか、また、半日開催とするとかいうところを考えると、感染防止対策をしております。

応援・観戦については、最初は無観客と考えておったんですが、やはり3年生の保護者のみはというところで。ただ、そこにはマスクの着用とか名簿の記載、観戦スペースの制限というところが下の写真に写っております。

少し戻ってください。1ページの裏の写真が載っているところ、学校再開の取組等についてです。

「学校の新しい生活様式」というガイドラインが出されました。それにのっとって授業における工夫。

一番左上の写真、パーティションを外すと書いてあるんですけれども、このパーティションというのは、学校の中には、オープンスクールといって壁を取り払う、移動させることができる学校が幾つかございます。そういうところは、換気も含めて子どもたちのソーシャルディスタンスを取るというところで、このような取組をしております。

音楽科の授業が、マイクを使うようになっておるんですけれども、これは四日市ライオンズさんから寄贈いただいたものの一つです。マスクをしながら大きな声を出すこともなかなかできませんので、先生ら、しゃべっておるほうも続けてしゃべると非常に暑いというところで、飛沫対策を講じる指導の工夫で活用させていただいております。

左の上から2番目、フェイスシールドの活用というのがあるんですが、難聴の子なんかは口元を見て相手の意思とか指示を見ますので、この際にはマスクを外してフェイスシールドの取組をしているところです。

I C Tの活用というのは先ほどからも出ておりますけれども、上の段の右側をご覧ください

さい。学んでE-net！環境整備ということで、多目的室にパソコン、プリンタを設置し、自ら学ぶことができる環境を整備しました。このプリンタ等も、予算をつけていただいて各学校に設置して、子どもたちが学んでE-net！を実施しております。特に、学習環境がない子とか紙でやったほうがいいという子は、自分たちでできる環境を学校の中に整えていくという工夫も見られます。

次の生活面における工夫というのは、ソーシャルディスタンスをどう取るか、どう意識させるかというものでございます。

続きまして、次のページでございます。2枚目の写真をご覧ください。職員の感染防止対策ということで、ここも一つ一つの間隔を空ける、密集にならない環境にするところです。

その他の取組としましては、アルコール消毒の設置、学校における手作りマスクとか、学校で対策を共有するためにホワイトボードに書くとかいう情報共有をやっております。

4番目、児童生徒の様子についてです。これは、教育長はじめ指導主事等が学校訪問をする中でどのような姿が見られたかというところを書かせていただきました。

よい姿で、落ち着いて学習に取り組む姿が見られた。また、学習課題に向かっている。あるいはマスクの着用をきちんとしているというところ です。

課題となる姿としては、問題行動報告にも表れてきておるんですけれども、友人や家族関係の悩みが非常に多くなってきた。ただ、教育相談の中では、教師との信頼関係の中で個人的な悩みを話してくれているというところでもあります。登校渋りが増えてきている。あるいはSNSのトラブルが増えてきている。新しい生活様式に疲れてきている。これは子どもだけでなく、先生らも疲れてきているというのは事実です。詰め込みとは言わないですけれども、学習内容を消化するというところで、定期テストを今まで3日間やってきたものを2日にするとか。もともと2日という学校もあるんですけれども。そんなところで生徒への負担も増えている。

特に中学校3年生ですけれども、高校入試を控えております。県が高校入試のテスト範囲は全ての内容というところで提示してきておりますので、これを2学期までにこなすということはできると思うんですが、どう定着させるか、あるいは学んだことを試験に自分できちっと発揮できるかとかいうところは不安があるということです。

最後に、記載はされていないですけれども、報告させていただきます。

7月28日、7月29日、きのう、おとといと市内中学生が陽性反応と各報道にも発表

したところでは。現在、3日間の休校、関係機関と連携して濃厚接触者とかあるいは学校の消毒という作業をしているところです。

学校で一生懸命、3密を避けるとか、あるいは咳エチケットの取組、ソーシャルディスタンスという取組を進めておるところですけれども、大人の行動も非常に大事になってくると思います。このことについては、教員あるいは保護者にも通知したところがございます。

誰がなっても本当に大変なことですけれども、正しく恐れるところを今後、私たちも含めて注意していかなければならないと感じているところです。

以上です。

○佐藤政策推進部長 ありがとうございます。

現在の学校の状況についてご報告を頂きました。

時間もあまりないですけれども、何かご質問等ございましたら。

よろしいですかね。

本日はどうもありがとうございました。

本日の意見をもとに作業を進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。